

# 令和7年度健康長寿ふくしま会議 議事概要

## 1 日時等

令和8年3月24日(火) 14:00～  
ウエディングエルティ2階 ハートンルーム

## 2 出席者

別紙出席者名簿のとおり

## 3 知事あいさつ

令和七年度健康長寿ふくしま会議の開会に当たり、御挨拶を申し上げます。  
本日は年度末の大変お忙しいところ、御出席を頂き、誠にありがとうございます。  
また、皆さんには、日頃から、本県の健康づくりの推進に格別の御尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。

健康長寿ふくしま会議は、オールふくしまの体制で、県民の皆さんの「健康寿命の延伸」や「健康格差の縮小」に取り組んでいくため、平成三十一年三月に設立いたしました。

昨年度からは「第三次健康ふくしま<sup>にじゅういち</sup>21計画」がスタートし、「みんなでチャレンジ! 減塩・禁煙・脱肥満」のスローガンの下、地域保健と職域保健の連携を強化し、健康づくりの取組等について共有を図りながら、一体的かつ効果的な情報発信や普及啓発などを実施してまいりました。

今後、本県の健康づくりを更に推進していくためには、県はもとより、県民の皆さんを始め、市町村や教育機関、関係団体、企業等の皆さんが共にその推進の主体となり、実効性のある取組を協働で実践していくことが必要であり、その中核を担う本会議の役割は大変重要なものとなっております。

本日の会議では、昨年十二月に国から公表された「令和六年国民健康・栄養調査」の結果について事務局から報告があります。中でも男女とも全国ワースト二位だった食塩摂取量が、男性ワースト十一位、女性ワースト二十位に改善するなど、これまでの取組の成果が着実に現れております。

こうした結果を踏まえ、本日は、計画の進捗を評価する基準値の設定や目標値の変更について協議させていただきます。また、今年度の取組実績の共有や次年度の取組方針等について意見交換を行い、健康づくりの気運を一層高めていきたいと考えております。

是非、忌憚のない御意見をお願いいたします。

本日は、会議終了後に、新たなふくしま健民アプリの完成披露報告会を開催いたします。県民の皆さんがより楽しみながら効果的に健康づくりを実践できるアプリを目指し開発いたしました。委員の皆さんと共に新たなスタートを切り、健康づくりの取組を更に盛り上げていきたいと考えておりますので、是非、引き続きの御出席をお願いいたします。

## 4 議 事

### (1) 協議事項(1) ①「計画の基準値と令和6年国民・健康栄養調査の結果について」

○資料1より、事務局から説明。

本計画における基準値設定の考え方について、目標の達成状況を評価する上での基準値の設定年度は、計画初年度の令和6年度とし、国民健康・栄養調査の大規模調査の結果等を踏まえ、令和7年度に、全ての目標項目の現況値を令和6年度の直近値に更新し、基準値として設定・公表することとしていた。

また、基準値を設定する際に、基準値となる直近値が目標値に到達した場合は、必要に応じて目標値の見直しを行う。

国民健康・栄養調査の大規模調査をデータソースとしている目標項目は、重点課題の一つである食塩摂取量など、6項目となるが、数値が8年ぶりに更新された。

令和6年国民健康・栄養調査の結果概要について説明する。

野菜摂取量については、前回調査から、男性は9g増加し356g、女性は17g減少し297gとなった。全国順位は男性が1位に上昇、女性は2位から変わらない結果だった。

主食・主菜・副菜がそろったバランスの良い食事やベジファーストの普及啓発等に取り組んだことにより、全国トップクラスとなる結果が現れた。

食塩摂取量については、前回調査から、男性は0.8g減少し11.1g、女性は0.9g減少し9.0gとなった。全国順位も男女ともワースト2位から、男性はワースト11位、女性はワースト20位へ改善した。

産官学連携で取り組んできた「誰もがおいしく減塩できる食環境づくり」等の成果が現れたと捉えているが、男女とも全国平均を下回っており、引き続き重点課題として改善を図る必要がある。

歩数については、前回調査から、男性は1,955歩増加し9,252歩、女性は148歩増加し6,618歩となった。全国順位は、男性が6位へ上昇したが、女性は37位へ下降した。

ふくしま健民アプリによる動機付けやウォークビズの普及啓発等の成果により男女とも歩数が増加したものと捉えているが、今後は、より女性に向けた普及啓発等を実施する必要があると認識している。

○各委員から意見・質問等なし

### (2) 協議事項(1) ②「計画の基準値(案)及び一部目標値の変更(案)について」

○資料2・資料3より、事務局から説明

本会議の専門部会の一つで、「地域・職域連携推進部会」において部会案として取りまとめた結果である。

基準値について、令和5年度の計画策定時点の現況値に対して、全ての目標項目を令和6年度の直近値に変更している。

例として、健康寿命については、3年に1回数値が変更されるため、令和4年の値を基準値としている。

野菜摂取量及び食塩摂取量は、国民健康・栄養調査の令和6年の値を反映している。

脳血管疾患及び心疾患の年齢調整死亡率は、出典とする人口動態統計特殊報告が5年に1回の公表となるため、基準値は現況値と同じ令和2年値としている。

一部目標値の変更(案)については、今回設定する基準値が既に目標値に到達したもののについては、目標値の変更を予定しており、再掲を含めて12項目ある。

健康格差の男性の目標項目について、基準値が1.36年となり、従来目標値1.66年に到達したことから、これまでの差の縮小幅と同水準の縮小を目指し、新たな目標値を「1.03年」とした。

野菜摂取量の男性の目標項目については、国が目標値としている350gの水準を引き続き維持していくことを目指し、「350g以上」とした。

野菜摂取量の女性の目標項目については、男性の目標設定と合わせ、「350g以上」とした。

歩数の男性の目標設定については、国の目標値が9,000歩と引き上げられたことから、その水準を引き続き維持していくことを目指し、「9,000歩」とした。

歩数の女性の目標設定については、男性の目標設定と合わせ「9,000歩」とした。

睡眠時間の目標設定については、これまでの改善率と同水準の改善を目指し、「9.7%」とした。

疲労の目標項目については、これまでの改善率と同水準の改善を目指し、「22.8%」とした。

脂質異常症の目標項目については、国が基準値から25%の減少を目標値としていることに合わせ、「男性7.8%」「女性8.2%」とした。

骨粗鬆検診受診率の目標項目については、これまでの改善率と同水準の改善を目指し、「85.0%」とした。

○各委員から意見、質問等なし

○「計画の基準値(案)及び一部目標値の変更(案)について」承認された。

### (3) 協議事項(2) ①「福島県の取組実績・取組方針について」

○資料4より、事務局から説明

昨年度から第三次健康ふくしま21計画がスタートし、健康長寿ふくしま会議が中心となり、健康づくりの取組を企画・発信・実践・評価していくとともに、地域及び職域保健と連携することで、社会資源等を有効活用し効果的・効率的な施策を展開し、県民の健康増進を進めている。

重点スローガンを分かりやすく伝え、親しみを持ってもらうため、ロゴマークを作成した。認知度向上のため、積極的に活用していただくよう、願います。

今年度の健康長寿ふくしまトップセミナーについては、「女性の健康」をテーマとし、経済産業省ヘルスケア産業課による「女性の健康課題と健康経営」に関する基調講演や、知事と県内の企業経営者を加えたパネルディスカッションを実施し、「女性が健康で活躍する職場・地域づくり」の重要性について理解を深めた。

女性の県外流出が課題であるため、「女性活躍・働く世代の健康づくり推進事業」として、奨励金の交付やメディア等を通じた広報を実施し、女性の健康づくり等の健康経営に取り組む魅力的で働きやすい企業の増加を図った。

「減塩」に関する取組では、福島県食育応援企業団や市町村、関係団体で構成するネットワーク会議の開催や減塩アクションプロジェクトへの参画事業所の拡大などにより、推進体制の強化を図った。

また、県民向けのイベント・キャンペーン等を多数開催した。

「禁煙」に関する取組では、中通り地域の妊産婦や配偶者等を対象とする卒煙プ

プログラムの実施や職域と連携した禁煙サポート事業を展開した。

また、イエローグリーンのライトアップキャンペーンや幅広い世代でたばこの健康影響について考えていただく「禁煙川柳コンテスト」を実施した。「空気のきれいな施設・車両」の認証数も着実に増加した。

引き続き、県民の禁煙・受動喫煙防止を推進していく。

「脱肥満」に関する取組では、ふくしま健民アプリを活用し、適正体重を意識するキャンペーンである「ふくしま測って健康チャレンジ」やアプリ上で歩数を競う「バーチャルウォーキング大会」を実施した。

次年度は新たなふくしま健民アプリを活用し、より多くの県民へ働きかけ、脱肥満を一層推進していく。

ふくしま推しの健活フェスタ2025を開成山公園で開催した。過去最高の19,275名が来場した。来場者体験型のブースを展開することで、より健康づくりを自分事として捉えていただける効果的な普及啓発を実施することができた。

○各委員から意見、質問等なし

#### (4) 協議事項(2) ②「各団体の取組実績・取組方針について」

<各委員発言>

##### ■公立大学法人福島県立医科大学 理事長 竹之下誠一委員

福島県版健康データベース(FDB)を用いて、地域の健康課題を分析して、県民の健康状況の「見える化」を図っています。データをもとに県、各市町村の担当者の人材育成・研修を実施したり、支援を行っています。この取組を継続して、健康長寿ふくしまの実現に、寄与したいと思っています。

##### ■福島県 内堀知事

データを「見える化」して、各地域や各職域で御利用頂くことは、非常に意義があると思います。

大きなデータで、また構築の貢献をしていただいていることに感謝申し上げます。

##### ■一般社団法人福島県医師会 会長 石塚尋朗委員

「みんなでチャレンジ!減塩・禁煙・脱肥満」というこの重点スローガンをテーマに県民向けの講演会の開催や、インスタあるいはライン、いろんなものを使って、動画での啓発、各種メディア媒体を利用するなどして、県民の皆様に対して広く啓発活動を行っております。

令和7年度に行った活動、次年度もこれらの取組をさらに徹底して、日々の日常診療の中においても県民への啓発活動に努めてまいります。

##### ■福島県 内堀知事

この一年間、幅広く活動していただいて、まさに医師会総動員だと思います。

特に発信の面でもメッセージの一つ一つ、インスタ、また動画といった形でしていただくことは、テレビ、新聞に加えて、非常に効果があると思いますので、こういった工夫について改めて御礼申し上げます。

■日本労働組合総連合会福島県連合会 会長 澤田精一委員

今、労働組合は春闘まっただ中であります。

春闘では賃上げだけでなく、働き方の改善、さらには総合生活改善に向けた取組として、誰もが働きやすい、そして活躍しやすい職場の実現、そして、多様性が尊重される社会に向けて、様々な知見を持った人がお互いを認め合い、やりがいを持って働き続ける職場を目指して取り組んでおります。

さらに、男女がともに仕事と生活の調和を実現するために、長時間労働を前提とした働き方を見直すとともに、全ての労働者が安全で健康に働くことができるために、長時間労働の是正、労働時間の短縮や仕事と育児、介護の両立制度を実現できる職場環境に向けて取り組んでおります。

■福島県 内堀知事

令和の働き方改革、行政でも民間企業、団体でも一つ一つ着実に進んでいると思います。

また、トップセミナーでも、女性の健康、女性活躍のための健康づくりを、特に職域でどうしていくかということも重要な視点だと思っておりますので、一緒に連携しながら取り組んでいきたいと思っております。

■福島産業保健総合支援センター 所長 中野新一委員

自分も福島県医師会の会員でもあり、今後、これから15年、福島県を健康にということで、今日から一步一步確実に、この福島県での歩みを進めていきたいと思いますという会長の方針に御協力をお願いいたします。

■福島県 内堀知事

今年は福島県が県として誕生してから150年、震災、原発事故から15年という一つの節目の年ですが、健康関係が、特に原発事故以降、より悪化したこの15年だったと思います。

皆さんと一步一步頑張ることで、データもよくなるということで希望が見えてきていますので、皆さんの熱い思いで、福島県全体で健康長寿に向けて取り組むことは必ずできると思っております、その熱い決意しっかり受け止めさせていただきます。

■全国健康保険協会福島支部 支部長 遠藤隆男委員

今年度は県が進めている「減塩・禁煙・脱肥満」この取組に歩調を合わせる形で、特に禁煙の事業に力を入れて取り組みました。

具体的に、喫煙者個人と事業所あてに禁煙の勧奨通知を発送いたしました。

それから三師会の会長さんとの対談内容につきまして、新聞に掲載いたしました。

昨年12月には禁煙セミナーをオンラインで開催をいたしまして、多くの方に視聴していただくなど、多面的に事業を展開したところであります。

また高血圧対策の一環といたしまして、デジタル塩分計を県内150の事業所に送付をいたしまして、現在社内で活用頂いているところです。

来月各社からのアンケート結果を集計いたしまして、今後の事業につなげる予定としております。

来年度につきましては、先に福島労働局さんと連携協定を結びましたので、産業支援センターさんにも御協力を頂きながら、メンタルヘルスに関する取組を強化

してまいりたいと考えております。

そしてこれらの事業に加えまして、健康経営のさらなる促進を図りまして、県全体の健康指標の改善につながる事業を続けてまいりたいと考えております。

#### ■福島県 内堀知事

非常に幅広い事業を担っていただき、また特に健康経営という切り口で、一緒にやらせていただいておりますが、これは間違いなく、働く世代の皆さんの健康につながると思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

#### ■福島県歯科医師会 会長 海野仁委員

1年に1度は歯科医院を受診して検診を受けましょうということを進めてまいりましたが、私たちとしましては、健康長寿は、高齢になってから目指すのではなく、若い年齢のうちから気を使って、初めて達成できると認識しておりますので、そのことを検診などを通じて皆様に理解していただきたいと思っております。それから、私たち歯科医師会単独で行っていく健康増進、健康長寿に対しての費用は、そんなに大きく膨らませられるものでもないのですが、次年度以降になります、例えば、睡眠時無呼吸症候群に対応できるようなお医者さんはおりますが、そこにお手伝いができるような歯科医院の数を増やすようなことも、それからまた、他の団体や行政が企画しているイベントなどの周知について歯科医院の窓口や待合室を使って、協力できるようなことも探して、そして、目標といたしましては、他の団体は健康長寿に向かってやっていることについて、我々で協力できることについて積極的に考えていきたいと思っております。

#### ■福島県 内堀知事

今まさに言われた、それぞれの団体が連携することで、1+1が2ではなくて、3、4になる可能性があると思うので、そういった取組、できるところから展開していただければと思います。

また、健康は、例えば歯もそうなんです、年をとってからケアするのももちろん大事なんです、やはり若い世代のうち、あるいはまさにバリバリで働いている時も含めて、口腔ケアを行っていくことが結果的に、高齢になった時に、非常に元気な歯を持ち続けて、8020ということにつながると思っていますので、そういった意識づけも学校教育の段階から含めてやっていくこと重要だと感じさせていただきました。

#### ■一般社団法人福島県薬剤師会 会長 長谷川祐一委員

1年に、一人の県民が10回は薬局を訪れ、薬剤師と話す機会があるので、様々な健康の相談を受けてもらってまいりました。

そしてまた、福島県が掲げている脱肥満、それから減塩・禁煙というところに対しても取り組みました。

特に禁煙については、学校、薬剤師等も含めて、禁煙の防止活動もしてまいりましたし、減塩についても様々な取組をしてまいりました。

塩分計の使い方、塩分の量、食品に表示されるナトリウムという食塩量の関係とかを県民の皆さんと、やはり相談して具体的に理解していただくということを考えております。

総じて言えば、県民の皆さんがこの健康に関する理解度を深めるため、私どもの職種と一緒に、共通した認識を持つことが1番の相談相手としてふさわしいと思

い、会員と一緒に取り組んでまいります。

■福島県 内堀知事

薬局に伺って、薬剤師さんといろいろお話をし、詳しく説明していただくのは、県民の皆さんにとっても、非常に大きな窓口になる部分だと思いますので、これからもぜひいろんな形で幅広いアドバイスを分かりやすく伝えていただければありがたいです。

■公益社団法人福島県栄養士会 会長 大塚綾子委員

令和6年度の国民健康栄養調査の中で、食塩摂取量が改善されたことは、皆様との取組が数値的に出てきたなどということ、とてもうれしく思うところです。

福島県の取組実績方針の中で、減塩に関する取組で、親子で学ぶ・体験する減塩ワークショップで、県とともに、この取組を今年度実施させていただきました。

次年度も食と栄養に関する専門的な支援を実践して、脱肥満、肥満改善、生活習慣病の発症、重症化予防及びフレイル予防を推進しながら、食生活、それから食環境への減塩の取組を重点的に推進することで、皆様とともに健康長寿を目指してまいりたいと思っております。

御協力よろしく願いいたします。

■福島県 内堀知事

特にワークショップについては、非常に参加していただいた方がリアルに実感していただける重要な場だと思います。

様々な場面で連携していただいていることに感謝申し上げます。

■厚生労働省福島労働局 局長 岡田直樹委員

最近の職域におきましてはパワーハラスメントなど、ハラスメントを原因とする精神障害の労災請求が増加傾向にございまして、職場のメンタルヘルス対策が重要となってきております。

本年10月からはカスタマーハラスメント対策が事業者の義務となりますので、カスハラを含めた、ハラスメント対策を引き続きやってまいりたいと考えております。

また、全ての事業場に労働者のストレスチェックを義務とする改正労働安全衛生法が昨年5月に公布されまして、3年以内に施行されますので、十分浸透するために、キャンペーンをやっていきたいと考えております。

■福島県 内堀知事

カスハラを初めとした各種ハラスメント対策、昭和・平成では、ある意味スルーされてきた部分ですが、令和においては、しっかり取り組んでメンタルヘルスも含めしっかり働き方の環境を守っていかなければいけないということで、ぜひ一緒に取り組んでいきたいと思っております。

■株式会社福島民報社 代表取締役社長 芳見弘一委員

社業の柱の一つに県民の健康づくりの推進を掲げております。今年度は、県立医大とも連携しまして、紙面企画の「一日一動」を展開してまいりましたが、自宅で手軽にできる運動として、多くの読者が取り組んでくださっているようです。また、新しい内容、皆様の取組をしっかり取材して、新聞紙面でしっかりと県民に周

知を図るということに努めてまいりたいと思います。

■福島県 内堀知事

地域づくり、会社として健康づくりに力を入れていただいている、特に、健康関係の報道、熱心にしていただき、また自社としてイベントも開催していただいております。

今後ともどうぞお力をかしてください。

■福島民友新聞株式会社 代表取締役社長 野崎広一郎委員

毎月1ページ特集として、民友健康キャンペーンという紙面を展開しておりますが、今年度は「ふくしまからだ改革、減塩・禁煙・脱肥満」と題した連載を行っております。先月末までに、これまでに9回掲載しております、最新のものでは、フレイル予防をしよう。減塩や、肥満対策など、専門家のお話であったり、あるいはすぐれた企業の取組であったり、そういったものを紹介して、健康に関する知識を深めてもらおうとやっております。

一方事業としては、民友ではウォーキングに力を入れておりまして、昨年、合計で12回のウォーキング大会を県内各地で開催しました。

月1回のペースですが、都合のいい時には複数回実施しております。合計で7,500名ほどの方に参加していただきました。

次年度も健康長寿県に向けて、一つは情報発信、専門家のお話、あるいは皆様のような健康に取り組んでる団体のイベント、それから、事業等では、皆さんに参加していただいて、楽しみながら健康について学んで、実践していただけるようなイベントの開催。情報発信とイベント、この二つで、健康長寿県を目指す取組をしていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

■福島県 内堀知事

新聞紙面でしっかりと健康づくりの特集を組んでいただくと、じっくり読んで、自分で学んで、実践するという動きにつながります。また、ウォーキングに力を入れていただいている、そこに参加した方がやっぱり笑顔で歩いておる姿、時々私も拝見しています。こういった活動も可能な範囲で是非継続していただければありがたいです。

よろしく願いいたします。

※以上で予定時間となったため終了。

■福島県 内堀知事

皆さんから様々な御意見を頂き、非常に連携して取り組むということで、県民の健康づくりのために一緒に頑張っていきたいと思っております。

今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

※以上で会議を閉会。